

強権的労務支配を許すな！

日刊 動労千葉

1988.8.28

No. 2877

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

不良職制を許さずストライキ体制を構築しよう。

すべての組合員みなさん！ 七一八月の組織強化月間をたたかいぬき、九月より「九・一」国鉄労働者集会」「十月二―三日の動労千葉定期大会」「十・二三三里塚」、そしてなによりも職場におけるストライキを辞さぬ体制の構築を中心とした今秋期闘争の勝利をかちとるために、全組合員の総決起を訴える。

京葉線をめぐる不当差別、強制配転を断じて許さない！

会社当局―動労革マル・鉄道労連の一体となった動労千葉根絶しの攻撃は依然として陰に陽に続けられているが、とりわけ車務課長河野らによる強権的労務支配は職場に怒り、不満、混乱をもたらしている。

八月下旬以降、京葉線開業にともなう訓練の開始、夏季輸送の終了などをめぐり、またしても不当配転、差別が予想されるが断じてこうしたことを許さない。すでに、現場では津田沼、千葉転、勝浦、銚子などをめぐって配転のうわさがとりざたされている。要員運用を明確にしないまま、会社側の勝手な都合によってしかも組合差別のみを優先させる人事運用を粉砕しよう！

大雨時に、アゴヒモ・カーテンチェック、お盆休みに当局全員休暇（津田沼運転区）

八月十一、十二日、記録的な大雨と地震とで支管内の列車は大いに乱れた。その十一日午前中、津田沼支部破壊にうごめく久保、代古、石川らの不良職制らは、津田沼ホームに立ち「アゴヒモ・カーテンチェック」を行っていたのだ。さらに、お盆の帰省客でごった返した十三、十四日は、当然にもJRは「猫の手も貸りたい」ような状況であり、乗務員はまともに休みも取れずに働いている。しかも、今年は土・日が重なり大忙しだったはずである。ところが津田沼運転区では、当直助役を一人残し、区長以下職制どもは全員ぬくぬくと連休を楽しんでいたのである。仮にも指導的立場にいるはずの当局が、列車の運行が乱れることが予想される時に、「アゴヒモ・カーテンチェック」をやり、かき入れ時の盆には休暇をとる。これが動労千葉破壊の先兵をかつてている連中の姿だ。

運転でのストライキを辞さぬ体制を打ち固め、秋のたたかいを勝利しよう！

檄 全国上映運動を大成功させよう！



9・2千葉上映会

■9月2日（金）午後6時
■千葉市民会館小ホール
（千葉駅下車徒歩5分）

9.11 国鉄労働者集会

〇13時

〇南部労政会館
（東京）

各支部全力動員